

明治大学生と羽咋郡市農業青年青雲会との農業交流 ～ 農業青年の自主的な取り組みを後方から支援 ～

中能登農林総合事務所

羽咋郡市農業青年青雲会（以下、青雲会）は、羽咋市・宝達志水町・志賀町で農業に従事している若手の農業者グループで、現在会員数13名で活動しています。

会では、日頃営農している中で解決したいことや地域で課題となっていることなどについて課題を定め、それを解決するための取り組みや実行しようとした内容を「プロジェクト活動」とし、毎年テーマを変えながら活発に取り組んでいます。

春の定例会にて「今度のプロジェクト活動は何をしようか」と話し合っていたところ、参加者から「明治大学農学部（神奈川県川崎市）の学生が、宝達志水町内の農家のもとで1週間の農業体験を行う予定がある」との話題が出たことで、プロジェクト活動に繋がれないかと何度も話し合った結果、今年の活動は「明治大学生と青雲会会員との農業交流」に決まりました。

学生の農業体験の取り組みは、宝志農業振興協議会（以下、農振協）の事業として毎年行われてきており、町内農家の指導のもと農業体験や農家民泊などを経験するという内容で、今回で9回目となります。

農振協と学生らに「滞在期間のうち1日を会員との交流にあてられないか」との打診を行ったところ、両者の了承を得てプロジェクト活動の実施の運びとなりました。

8月25日、まずは「農家訪問」ということで、会員3名のもとを学生8名が訪れ、ほ場や施設の概要について会員が説明を行い、学生からの様々な質問に答えました。その後、昼食として、神子原農産物直売所にて販売されている神子原米のおにぎりや猪肉の入ったコロッケ、地元産の様々なブドウやイチジクを食べながら、意見交換を行いました。

その中で、学生から「11月の学園祭で青雲会の農産物を販売してみてもどうか？」との提案があり、明治大学学園祭にて、会員の農産物を販売することとなりました。

「どうすれば首都圏のお客さん達に、自分たちが育てた農産物の品質の良さを知ってもらえるか」について会で検討した結果、新たに作成した「能登育ち」という共通のロゴシールを農産物に貼って首都圏で販売することに繋がりました。販売に併せて、アンケート調査も行うなどし、ブランディングの難しさを知るとともに、首都圏の消費者との交流を深めることが出来ました。

農林事務所では、今回の取り組み以外にも、次世代の地域農業のリーダーとなる農業青年の企画から運営に至るまでの自主的な取り組み活動に対しても支援を行っており、引き続き、定例会やプロジェクト活動などを通じ、農業青年が活動しやすく仲間作りや情報交換を行える手助けとなるよう、取り組みに対しバックアップを行って参ります。

問い合わせ先：中能登農林総合事務所 農業振興部
(0767-52-5522)



現地研修の概要を説明する出倉裕一 青雲会会長



アスパラガス栽培を説明する池野郁弥氏



水稲栽培の概要を説明する向瀬正芳氏と千木友裕氏



青雲会と学生たちと昼食を取りながら意見交換